

2019年2月〇〇日

町田市長 石坂 丈一 様

町田市子ども・子育て会議
会長 金子 和正

答申書

2018年5月22日付け、町田市子ども・子育て会議へ諮問のありました下記の件について、当会議において審議した結果、別紙のとおり答申いたします。

記

町田市大地沢青少年センターのあり方について

以上

町田市大地沢青少年センターの
あり方検討報告書
(案)

2019年2月
町田市子ども・子育て会議

目次

はじめに.....	1
第1章 大地沢青少年センターの現状.....	2
1 大地沢青少年センターあり方検討の経過.....	2
2 大地沢青少年センターの概要と現在の利用状況.....	3
第2章 大地沢青少年センターの課題.....	6
1 施設の認知度について.....	6
2 施設の魅力の充実.....	7
第3章 提言.....	11
おわりに.....	13
参考資料.....	14
1 他自治体ヒアリング調査結果.....	15
2 他自治体の指定管理を受けている事業者からの事業提案.....	16

はじめに

大地沢青少年センターは、昭和53年（1978年）に青少年の健全育成と市民の福祉増進を図ることを目的として開設いたしました。現在40年が経過し、施設利用者の減少が進んでいます。集客力を高めるための検討をする必要があり、すでに庁内検討会や大地沢青少年センター運営委員会では、民間活力の導入も視野に入れた運営の必要性が報告されています。

「町田市子ども・子育て会議」は2013年11月に、子ども・子育て支援に関して調査・審議をする市の附属機関として設置されました。今回2018年5月に、町田市長から「大地沢青少年センターのあり方について」が当会議に諮問され、今後の施設のあり方を提言することになりました。この審議にあたり、より掘り下げた議論を行うため、少人数の「大地沢青少年センター検討部会」を立ち上げ、4回検討部会を開催いたしました。

また、施設の運営について理解を深めるために、町田市在住の13歳以上の方3,000人を対象とした市民アンケート調査※と、他自治体ヒアリング調査を実施いたしました。

市民の皆様のご協力による貴重なご意見を参考に、審議を重ね、このたび結果がまとまりましたので、ご報告をいたします。

※調査の詳細は別冊「町田市大地沢青少年センターアンケート調査結果報告書」と巻末の参考資料をご覧ください。

2019年2月15日
町田市子ども・子育て会議

第 1 章 大地沢青少年センターの現状

1 大地沢青少年センターあり方検討の経過

大地沢青少年センターは野外活動を通じて青少年の健全な育成を図ること、市民の福祉増進を図ること等を目的に設置された「青少年施設」です。

昭和53年（1978年）に開設し、恵まれた自然環境の中で野外活動や宿泊等の取り組みを行い、現在40年が経過しています。

この40年の間に、少子高齢化や利用者ニーズの変化・多様化により、当該施設は利用者減少が進んでいます。また、利用者からは、「食事やアルコールの提供」、「日帰り入浴」、「大人向け事業」等、開設当初にはなかったご要望が、寄せられている状況です。

このような中、集客力を高めるためには、利用者ニーズに沿った事業展開、既存施設及び地域資源の活用方法等を含め、これからの当施設のあり方について検討する必要があります。

すでに、庁内検討会や大地沢青少年センター運営委員会では、民間活力の導入も視野に入れた運営の必要性が報告されています。それらを踏まえ、2018年5月に町田市長からの諮問をうけ、今後の施設のあり方について審議することになりました。

2 大地沢青少年センターの概要と現在の利用状況

(1) 大地沢青少年センターについて

大地沢青少年センターは町田市西端にあり、町田市最高峰の草戸山（364m）をはじめとする山々に囲まれています。大地沢は相原共有の入会地として管理され、田畑の肥料、馬の飼料及び薪を取る場所として使われていました。また、町田市と相模原市の市境を流れ、江ノ島を河口とする境川の源流域でもあります。

周辺には、ムササビやリス、イノシシなどのほ乳類をはじめ、ホタルや沢ガニ、野鳥などの野生動物が生息しており、いろいろな野草を見ることもできます。このような豊かな自然の中で、キャンプ等の野外活動を楽しみながら過ごせることが大地沢の最大の魅力となっています。

しかし、豊かな自然に恵まれている一方、周辺は傾斜が急な山林に囲まれた環境となっており、2015年6月には、「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に規定する「警戒区域」に指定され、一部は「特別警戒区域」となっています。そのため、施設を新しく建てるためには、土砂災害が起きないように、山を全部コンクリートで固めるなどの工事をしなければいけません。それでは、大地沢の魅力が損なわれてしまうため、現状の建物（改修は行える）を活かした検討が必要となります。

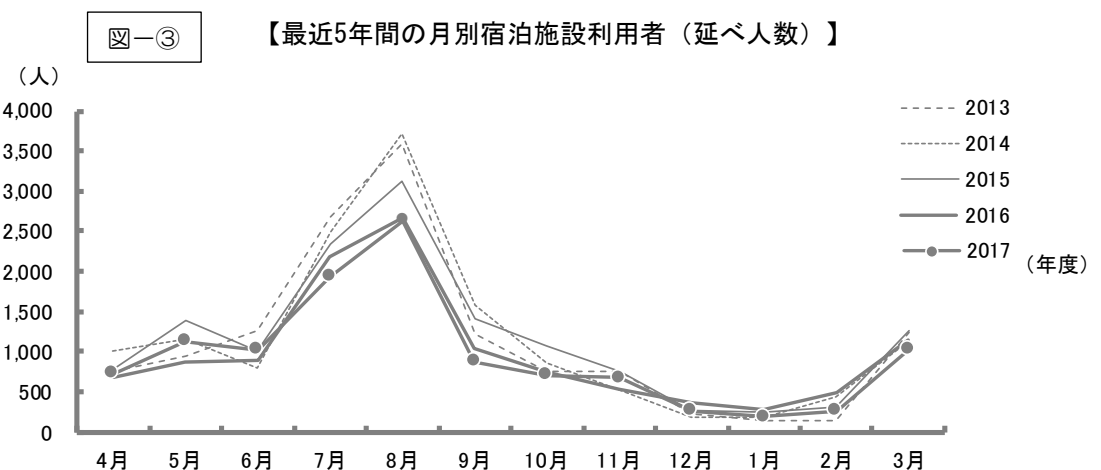
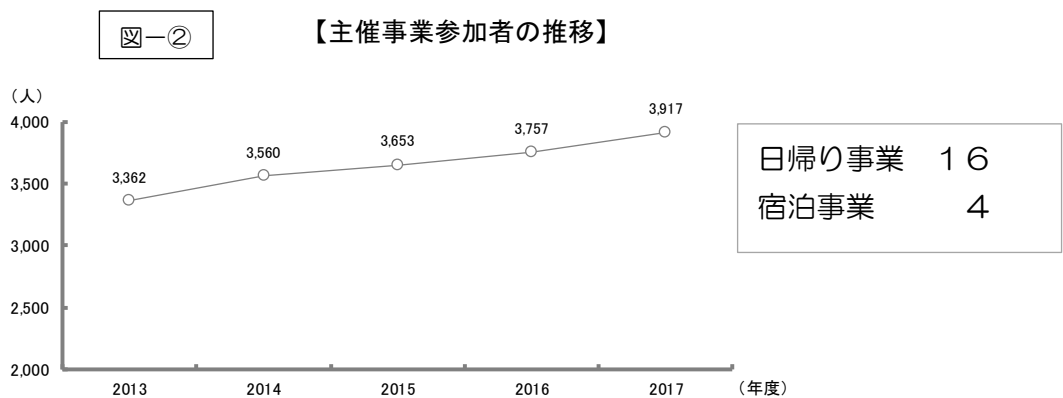
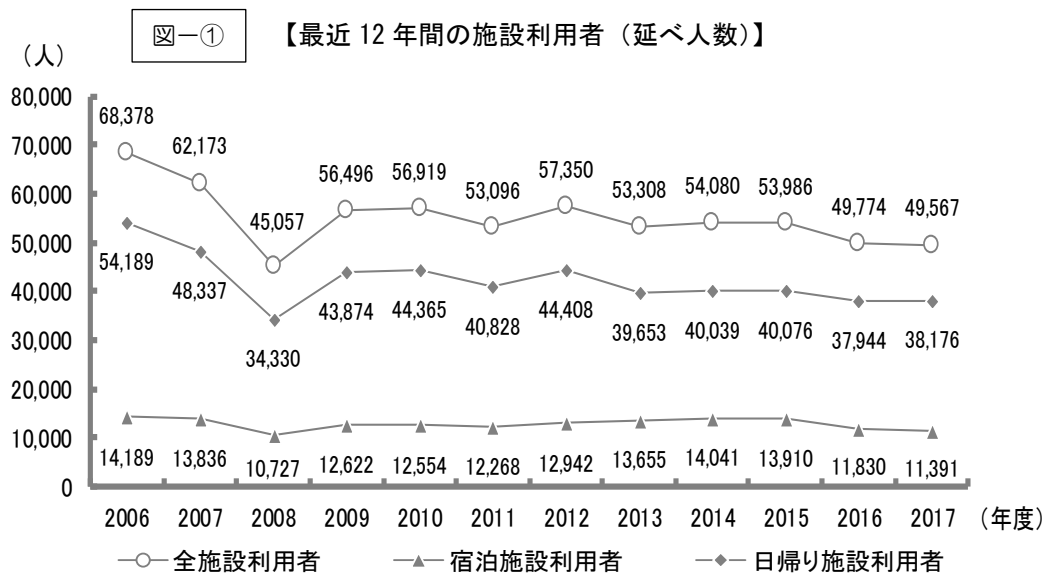


出典：国土地理院ウェブサイト（<http://www.gsi.go.jp/>）地図を一部加工して利用

※当センター周辺の気象情報に地理的状況を加味した土砂災害警戒情報システムを開発し、2017年9月から運用しております。このシステムにより早期避難の実施など、より安全な施設運営を行うことができるようになりました。

(2) 利用状況について

利用者数については全体として減少傾向にあります(図-①)。しかし、日帰り施設利用者については、2017年度は増加に転じており、また、主催事業の参加者は増加傾向にあります(図-②)。年間でみると、3月から11月が繁忙期、12月から2月が閑散期と屋外で過ごせる季節に利用が集中しています(図-③)。

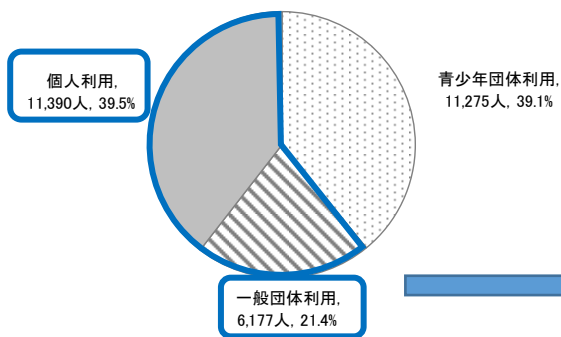


(3) 利用者の利用形態と年齢構成

大地沢青少年センターは「青少年施設」ですが、実際は青少年団体以外の利用が約60%あります(図一④)。青少年団体以外の年齢構成は、18歳以上の大人が約65%と、多数を占めています(図一⑤)。このことから、「青少年施設」でありながら、実際に施設を利用しているのは、個人や18歳以上の大人が多いことが分かります。また、宿泊利用者の約半数は、町田市外の方が利用しています(図一⑥)。

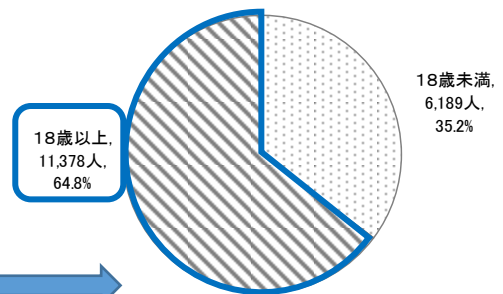
図一④

【利用者の属性別内訳(実人数)】



図一⑤

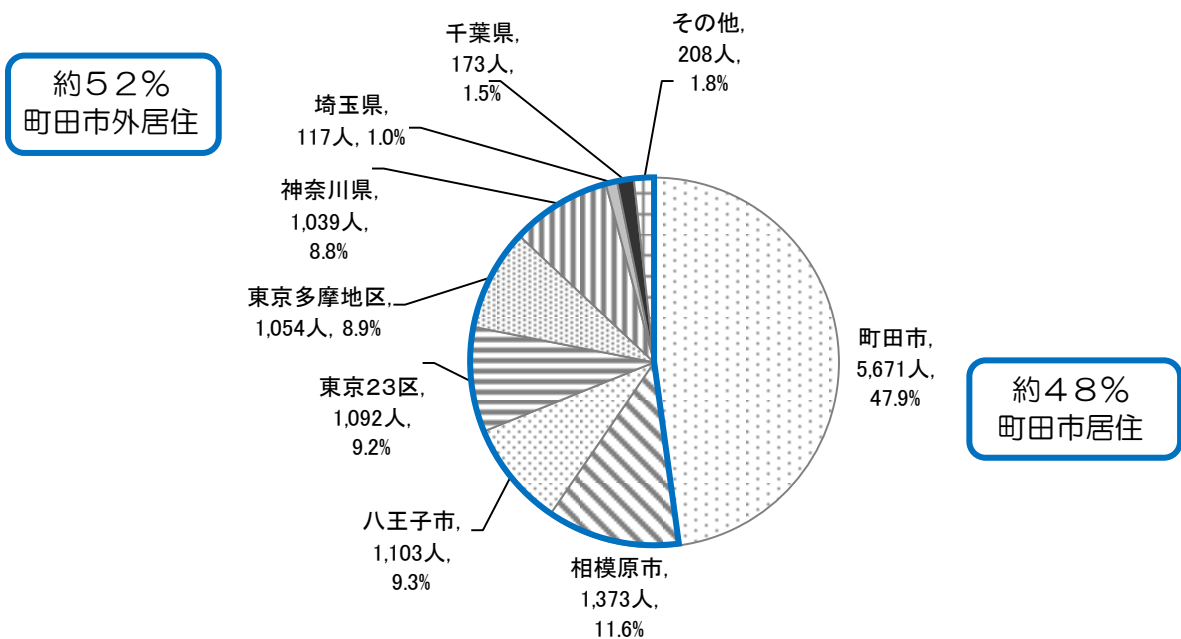
【個人利用と一般団体利用の年齢層内訳(実人数)】



- 個人：個人や家族、友人同士など
- 一般団体：趣味のサークルなど
(例) 太鼓演奏、ダンスサークル、合唱同好会など
- 青少年団体：18歳未満が70%以上で、青少年団体登録を行っている団体
(例) 保育園、幼稚園、小/中学校、ボーイ/ガールスカウト、子ども会、学童保育クラブなど

図一⑥

【2016年度 宿泊利用者地域別居住地内訳】



第2章

大地沢青少年センターの課題

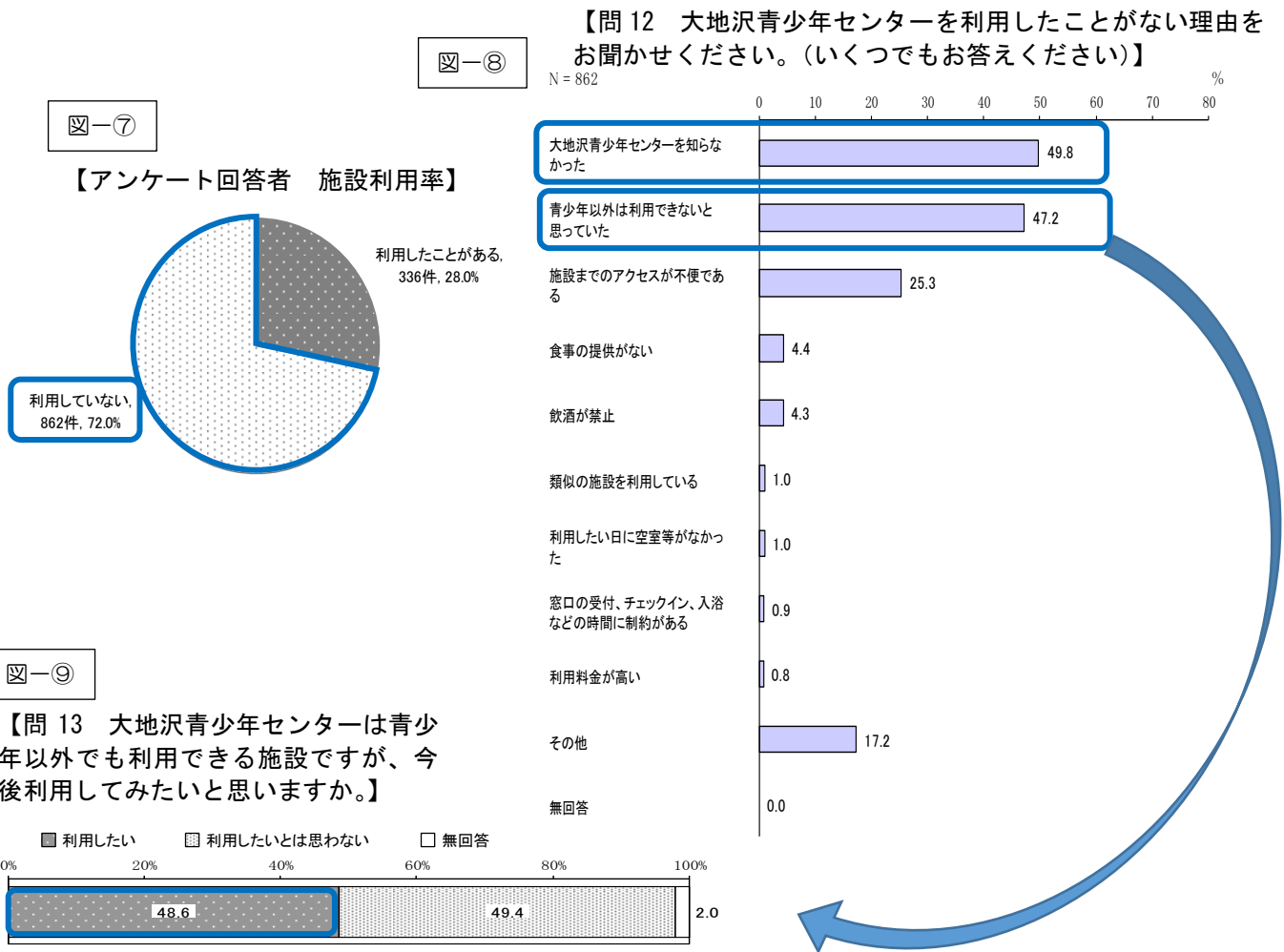
【集客力を高めるために】

1 施設の認知度について

前述の「利用者の利用形態と年齢構成」(P5)から、「青少年施設」でありながら、実際の利用者は、青少年団体以外の大人や個人、また、市外の人も多く利用しています。

一方で、町田市民を対象としたアンケート調査※1に回答した人の約7割が利用したことがなく(図一⑦)、その理由の約5割が「大地沢青少年センターを知らなかった」「青少年以外は利用できないと思っていた」となっており(図一⑧)、大地沢青少年センターが十分に周知されていないことが伺えます。さらに、「青少年以外は利用できないと思っていた」と回答した人に対して、利用意向を問うと約半数の方が「利用したい」と回答しています(図一⑨)。

このことから、幅広い世代に、子どもから大人まで利用できる施設ということを周知していく必要があります。



※1 別冊「町田市大地沢青少年センターアンケート調査結果報告書」参照(調査対象者:町田市在住の13歳以上の方3,000人を無作為抽出。有効回答1,198通で回収率39,9%)

2 施設の魅力の充実

(1) 事業展開・プログラムの充実について

現状、利用者数が減少している中で、「利用状況について」(P4)をみると、日帰り施設利用や、主催事業の参加者は増えています。

また、アンケート調査からは、サービス利用の意向(図-⑩・⑪)として、「日帰り入浴」「冷暖房や浴室などが完備されている宿泊施設(食事つき)」の施設利用面での意向が高く、さらに、「地元野菜や名産等の直売コーナー」「てぶらでバーベキュー」が高くなっています。年齢別では、「冷暖房や浴室などが完備されている宿泊施設(食事つき)」の割合が、年代が上がるにつれて高くなる傾向があります。

図-⑩ 【問14 大地沢青少年センターに、どのようなサービスがあれば立ち寄ってみたいですか。(1つお答えください)】

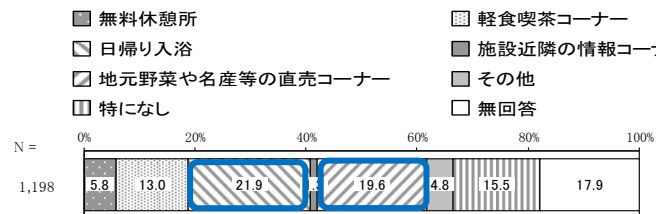
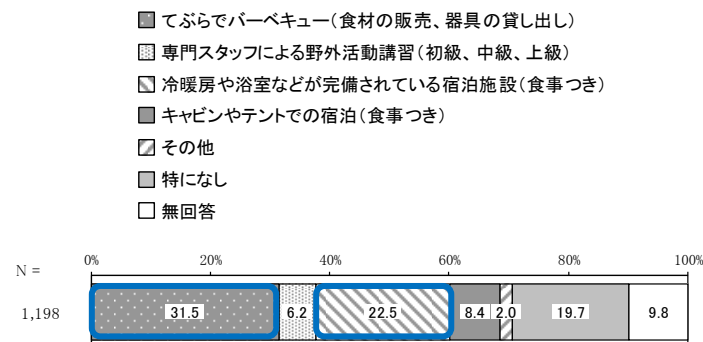
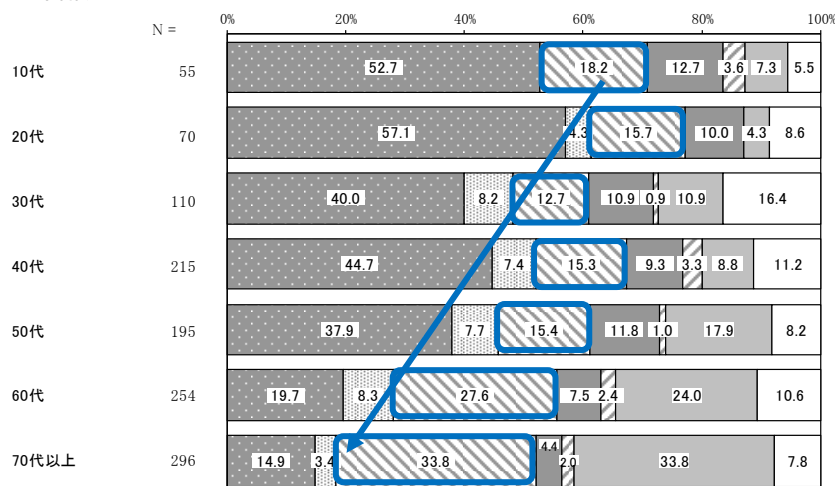


図-⑪ 【問15 大地沢青少年センターに、予約制で下記のサービスがあった場合、どれを利用してみたいですか。(1つお答えください)】



<年齢別>

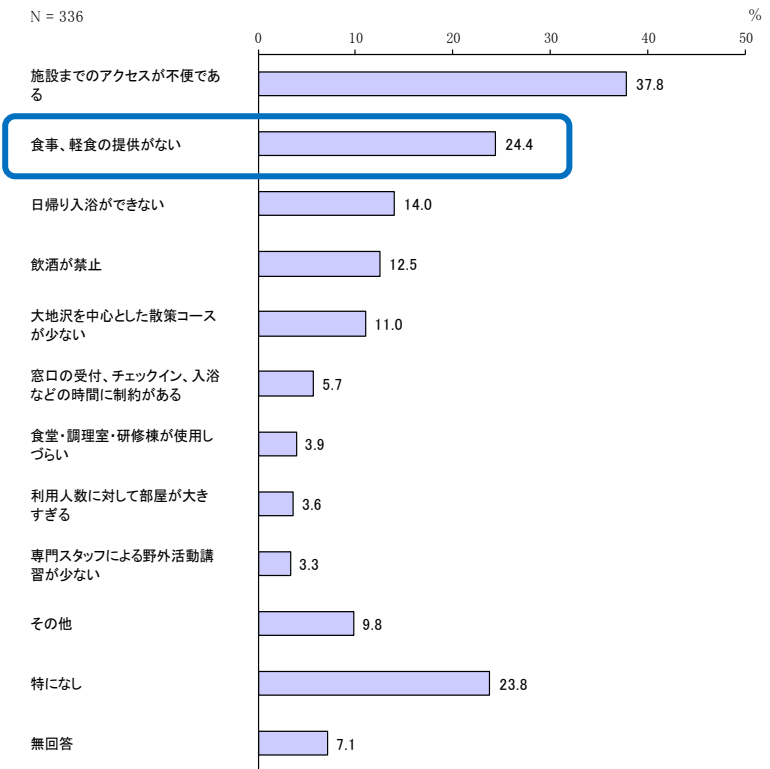


また、アンケート調査で、施設を利用したことがある人が、利用しづらい点として、アクセスの不便さの次に「食事、軽食の提供がない」(図一⑫)をあげています。窓口アンケート※²調査(図一⑬)では、「食事、軽食の提供がない」と同率で「窓口の受付、チェックイン、入浴などの時間に制約がある」があげられています。

【問 10 大地沢青少年センターを利用して、使いづらいと感じるところがあればお聞かせください。(いくつかでもお答えください)】

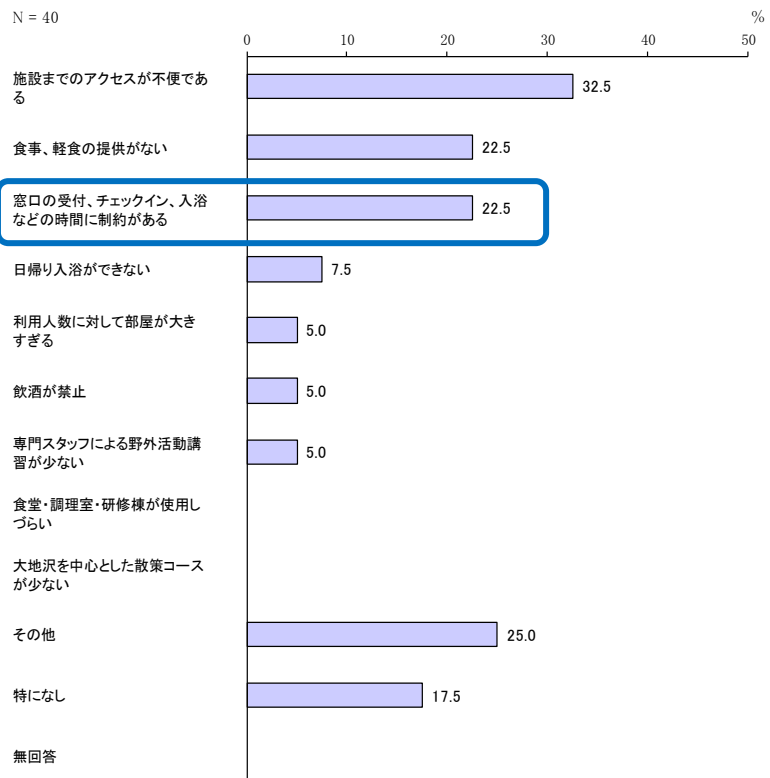
図一⑫

<アンケート調査(施設利用経験者)>



図一⑬

<施設窓口アンケート>



このことから現在の利用者は、食事（食材）の提供や、宿泊などの施設利用が快適に整っていないと、利用を躊躇する傾向にあると考えられ、今後、様々な利用形態・世代に対応できることも、施設運営には必要となります。さらに、施設を通年利用するためには、閑散期への対応が必要です。

そこで、他の自治体ではどのような施設運営をし、対応をしているかを知るため、他自治体ヒアリング調査^{※3}（図-14）を行いました。この他自治体ヒアリング調査結果からは、各施設ともに利用促進のため、プログラムの充実を図っていることが見えてきました。

図-14 【他自治体ヒアリング調査（抜粋）】

自治体	東京都	横浜市	尼崎市
施設名	高尾の森わくわくビレッジ	横浜市上郷・森の家	美方高原自然の家「とちのき村」
受託先	京王ユースプラザ株式会社	上郷フォレストPFI株式会社	公益財団法人日本アウトワード・バウンド協会
民間事業者と地域の連携及び協働	<ul style="list-style-type: none"> ・八王子市教育委員会 ・八王子わくわくfolkloreフェスタ開催 ・高尾の森自然学校（一般財団法人セブンイレブン記念財団）との共同企画 	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンサポーター ・施設内での大島桜管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元農家 ・モンベル ・植村直己冒険館パートナー連携 ・倉本聰主宰富良野自然塾との連携 ・大学とキャンプ実習等单位認定コース
民間事業者による利用促進のための取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト・アドベンチャープログラムの実施（企業研修等に活用） ・100種類のプログラムサービスの実施（雨の日でも飽きず過ごせる） 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本野鳥の会、日本自然保護協会と連携し、プログラムの拡充を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・要望に応じたプログラムの提供（PDCAサイクル） ・教員免許状更新講習 ・雪を活用した企画 ・冒険あそび

※2 別冊「町田市大地沢青少年センターアンケート調査結果報告書」参照（調査対象者：2018年8月6日から8月31日までに大地沢青少年センターを利用した個人・団体40組に無作為抽出と同じアンケートを実施）

※3 P15「他自治体ヒアリング調査結果」参照（東京都・横浜市・尼崎市にある大地沢青少年センターと類似施設に運営方法や取組を調査）

さらに、この他自治体ヒアリング調査のなかで、尼崎市にある施設を指定管理者制度で受託し、運営を行っている公益財団法人日本アウトワード・バウンド協会に、大地沢青少年センターでどのような事業ができるかを一例として、提案していただきました。*4（図-15）ここでも提示されているように、施設利用を今後促進するためには、大地沢青少年センターと周辺の魅力を活かした、プログラムや事業展開を用意することが必要と考えられます。

図-15

【他自治体の指定管理を受けている事業者からの事業提案抜粋】

構想概略

これまでのハード面（施設利用の価値）における利便性の向上、およびソフト面（プログラム内容、事業内容、幼児教育・学校教育への働きかけ）の充実を図ること。

1ー 継続事業と新規事業

地元資源を再確認し、その資源の有効活用と地域活性化を意識した事業立案。子供からお年寄りまで幅広い年齢層の方が“集う”場作りを目指す。

- 1、これまでの実績に基づいた主催事業の継続
- 2、新規事業
- 3、地元（町田市相原）の資源を有効活用した事業計画
地元住民が積極的に参画できる仕組み作りと資源の活用。また、地元団体・地元企業・女性組織が積極的に運営に参加できる仕組みづくり。地域を巻き込む事業の展開。

2ー 施設利用価値の向上

（中略）

- 4、健康保養地としての発信
運動、食事、メンタルヘルス等、総合的な健康づくりの拠点。特に自然・森林を利用した森林療法・気候療法の開発。

*4 P16「他自治体の指定管理を受けている事業者からの事業提案」参照（公益財団法人日本アウトワード・バウンド協会による提案）

（2）地域と連携した魅力づくり

大地沢青少年センターの活性化には、地域資源の活用が必要と考えられます。

他自治体ヒアリング調査（図-14）では、どの団体も地域と連携・協働をしており、アンケート調査（図-10・11）でも、「地元野菜や名産等の直売コーナー」や「てぶらでバーベキュー」などの、地元と連携できる事業の利用希望の割合が高くなっています。さらに、他自治体の指定管理を受けている事業者からの事業提案（図-15）でも地元資源を再確認し、その資源の有効活用と地域活性化を意識した事業立案や、地元住民が積極的に参画できる仕組み作りと資源の活用が提示されています。また、地元団体・地元企業などが積極的に運営に参加できる仕組みづくりのような、地域を巻き込む事業の展開も提案しています。

第 3 章 提言

提言 1

皆が利用できる施設であることを、幅広い世代に発信していくことが望ましい。

施設は市内・市外問わず、団体や個人、子どもから大人まで利用されていますが、施設自体の認知度が低いことが分かり、幅広い周知活動を行う必要性が伺えます。また、アンケート調査問19の自由記述でも、広報活動についてのご意見を一番多くいただいている状況です。

さらに、現状で施設を利用していない人も、今後、利用する見込みは十分あります。施設利用の促進のためには、大地沢の魅力を効果的に伝えられるよう、幅広く情報の発信をしていくことが望まれます。

提言 2

特色のある事業展開・プログラムの充実を図ることが望ましい。

閑散期を含めて通年で施設を利用してもらうためには、豊かな自然や、地域の特性を活かした魅力あるプログラム・事業展開が必要です。また、既存の施設を活かした事業を展開していくとともに、食事の提供や冷暖房完備など、施設の利便性や快適性を高めることも望まれます。

提言 3

大地沢青少年センターの魅力を最大限に発揮するために、周辺地域との連携を図ることが望ましい。

他自治体ヒアリング調査等からも、どの団体も地域と連携・協働をしており、地元との連携や地域の活性化について提案があります。「地元野菜や名産等の直売コーナー」「てぶらでバーベキュー」など、地元とのつながりを深めることができる事業の希望割合が高い状況です。施設は単体で運営を考えるのではなく、地域の中で連携して、どのように活性化につなげていくかを検討していく必要があります。地元資源を最大限活かせる事業展開の検討が望まれます。

提言4

利用者促進を図るため、施設名を変更することが望ましい。

大地沢青少年センターを利用したことがない理由として「青少年以外は利用できないと思っていた」の割合が高く、施設名が利用促進の妨げになっていると思われます。また、郵送アンケート調査の自由記述でも、名称を変更し、大人も楽しめる場所をアピールした方が良いというご意見もいただいております。

また、今までの「子どもの成長を育む」役割は、プログラムや事業で担保し、施設の設置目的の一つである「市民の福祉増進」の幅を広げ、新たに市民が集う施設として名称・位置づけを変更することが望まれます。

なお、大地沢青少年センターに愛着を持っていただくため、愛称を公募することも有効な手法として考えられます。

提言5

民間活力を導入し、大地沢の魅力を活かした施設運営をすることが望ましい。

今回実施したアンケート調査等から、利用者を増やすためには、幅広い世代に対応できる、多様なサービスの提供が求められています。そのためには、今まで行っていない事業展開を行う必要があります。

民間活力を導入した施設では、専門性を有した職員によるプログラムの充実、民間のノウハウを活かした事業展開や地域・企業などとの連携等により集客力の向上を図っています。民間活力を導入する際の大きな魅力は、そのような今までになかった視点や、新しい事業展開をすることができる点と考えられます。

通年利用してもらえる施設運営をめざして民間活力を導入し、地元資源や大地沢の自然を守り育て、幅広い年代に対応するための事業展開や、様々なプログラムを、民間の柔軟さで展開し、大地沢の魅力を伝える施設運営をすることが望まれます。

おわりに

この報告書は、大地沢青少年センターの現状を踏まえ、利用状況、アンケート調査、及び他施設との比較から課題を明らかにし、今後の大地沢青少年センターのあり方について検討した結果を提言にまとめたものです。

全4回開催された大地沢青少年センター検討部会において、大地沢青少年センターの魅力を高め集客力を向上させるためには、既存の資源や魅力をどのように活用し、どのようなサービスを展開していくべきか、活発な議論が交わされました。

アンケート調査では、大地沢青少年センターそのものの認知度の低さが確認され、誰もが利用できることのPR、事業展開及びプログラムの充実の重要性が認識されました。また部会の審議においては、地元野菜の販売、手ぶらでバーベキュー及び食事の提供などの意見が出され、魅力ある新たな事業を展開するためには民間活力の導入が必要であると議論されました。

一方で、大地沢の魅力ある豊かな自然をこれからも守り育てるとともに、自然を活かし、青少年健全育成の場などの役割を確保していく必要があるとの意見も展開されました。

最後に、市民の皆様や関係各所のご協力、部会での熱心な議論を経て作成された本報告書が、大地沢青少年センターのさらなる発展につながることを切に望みます。

2019年2月15日
町田市子ども・子育て会議

參考資料

1.【他自治体ヒアリング調査結果】

自治体	東京都	横浜市	尼崎市	町田市
施設名	高尾の森わくわくビレッジ	横浜市上郷・森の家	美方高原自然の家「とちのき村」	大地沢青少年センター
設置年月日	平成17年4月	平成4年7月	平成8年4月	昭和53年
以前の形態	都立八王子高陵高校	無償貸付 (公益財団法人横浜市緑の協会)	市直営	市直営
運営方式	PFI	PFI・指定管理	指定管理者制度	市直営
受託先	京王ユースプラザ株式会社	上郷フォレストPFI株式会社	公益財団法人日本アウトワード・パウンド協会	未定
民間活力導入時期	平成17年4月	平成30年6月	平成21年4月	
施設の位置付け	青少年施設	研修・宿泊施設	青少年健全育成・市民のレクリエーション場所の提供	青少年健全育成・市民福祉増進
予算	399,846,000	110,542,000 (2016年度補助金)	132,999,000	190,811,000
敷地面積	6.6ha(大地沢の約0.3倍)	6ha(大地沢の約0.27倍)	6.7ha(大地沢の約0.3倍)	22ha
建物延べ床面積	14,960.54㎡(大地沢の約4倍)	6,891㎡(大地沢の約1.8倍)	7,474㎡(大地沢の約2倍)	3,680.37㎡
客室(定員・和室・洋室)	定員 200名 和室 23畳 3部屋 13畳 4部屋 15畳 5部屋 洋室 15畳10部屋 12畳 6部屋 13畳 1部屋	※改修前旧施設情報 定員 136名 和室 20畳8部屋 16畳10部屋 洋室 2部屋	定員 261名 客室 10人用(2段ベット)24部屋 和室 3人用7部屋	定員 130名 和室 20人用6部屋 5人用2部屋
駐車場	132台	※改修前旧施設情報 125台	50台	88台
食事提供	有	有	有	無
お酒	場所を限定して提供 (食堂、風呂場前、客室)	食堂 野外炊事場 客室等	食堂のみ(23時まで)	禁酒
その他	・炊さん場(100名) ・テントサイト20区画 ・キャンプファイヤー場 2サイト ・研修室3部屋・多目的室1部屋 ・体育室4室・陶芸室 ・木工室・音楽室・学習室	※改修前旧施設情報 ・バーベキュー場 ・森のホール(144席) ・ミーティングルーム2室 (定員60名・20名) ・大広間(定員60名) ・大浴場・工房 ・火の間・ミニドーム	・野外炊事場(100名) ・テントサイト30区画 ・コテージ5棟・研修室5室 ・天文台・多目的ホール ・創作工芸室	・野外炊事場(100名) ・テントサイト10区画 ・キャンピング6棟 ・キャンプファイヤー・多目的ホール ・工芸室
総利用者数(日帰り+宿泊)	280,194	非公表	34,791	49,567
宿泊者数(2017年度)	33,612	33,691(2016年度)	32,183	11,391
施設稼働率	宿泊施設70%	約76%(2016年度)	宿泊施設36.2%	宿泊施設29.8%
民間活動導入理由	・民間資金、経営能力、技術力の導入 ・財政コストの削減 ・利用者ニーズの応じた質の高い対応 ・行政と民間との協力関係の形成	・施設の老朽化 ・施設の中に、ゴミ焼却施設の余熱利用で始めた温浴設備があったが、ゴミ焼却施設が移転したため、光熱水費の負担が増加 ・食事の魅力アップ ・個人利用を増加させる ・体験プログラムの充実	・施設稼働率向上のため ・経費削減 ・民間のノウハウを導入するため	
運営形態	京王ユースプラザ株式会社をはじめとする8社で運営	株式会社紅梅組をはじめとする7社で運営	上記受託先の1社で運営	
民間活力を導入するメリット	・事業の安定性が確保されている ・民間ノウハウを活かした事業 ・グループ企業の強みを活かした輸送力強化(バス路線の延長)や宣伝広告活動(電車中吊り広告) ・大口キャンセルが入った場合は京王観光等と連携し穴を埋めることができる	・民間事業者が6月に決定したため具体的な事業は現在調整中 ・PFIを導入することで建築費が単年度払いから複数年の分割払いとなるため、市の財政負担の軽減がおこなわれた	・地域連携による活動エリアの拡大 ・体験プログラムの増加 ・リピーターの増加 ・自然学校利用者が減少する中積極的なPR活動を行い一般利用者の増加を図る	
民間事業者と地域の連携及び協働	・八王子市教育委員会 ・八王子わくわく Folkloric フェスタ開催 ・高尾の森自然学校(一般財団法人セブンイレブン記念財団)との共同企画	・グリーンサポーター ・施設内での大島桜管理	・地元農家 ・モンベル ・植村直己冒険館パートナー連携 ・倉本聡主宰富良野自然塾との連携 ・大学とキャンプ実習等单位認定コース	
民間事業者による利用促進のための取り組み	・プロジェクト・アドベンチャープログラムの実施(企業研修等に活用) ・100種類のプログラムサービスの実施(雨の日でも飽きず過ごせる)	・日本野鳥の会、日本自然保護協会と連携し、プログラムの拡充を図る	・要望に応じたプログラムの提供(PDCAサイクル) ・教員免許状更新講習 ・雪を活用した企画 ・冒険あそび	

2. 【他自治体からの指定管理を受けている事業者からの事業提案】

構想概略

【青少年センター設置目的】

社会教育活動の一環として、恵まれた自然環境の中で、青少年の創造力を生かし人間性を豊かにする野外活動を行い、青少年の健全な育成を図り、あわせて市民の福祉の増進のために設置する。



これまでのハード面（施設利用の価値）における利便性の向上、およびソフト面（プログラム内容、事業内容、幼児教育・学校教育への動きかけ）の充実を図ること。

1 一継続事業と新規事業

地元資源を再確認し、その資源の有効活用と地域活性化を意識した事業立案。

子供からお年寄りまで幅広い年齢層の方が“集う”場作りを目指す。

1、これまでの実績に基づいた主催事業の継続

地元、町田市民の利用促進のための事業、地元の方々（講師）を登用した体験教室。

- * 自然観察、森林体験、陶芸教室、クッキング体験、ファミリーキャンプ、登山教室

2、新規事業

高尾山周辺の登山ルートとしての拠点であることを強調

- * 高尾山登山ルートのマップづくり。トレイルランニングのルート開拓。

3、地元（町田市相原）の資源を有効活用した事業計画

地元住民が積極的に参画できる仕組み作りと資源の活用。また、地元団体・地元企業・女性組織が積極的に運営に参加できる仕組みづくり。地域を巻き込む事業の展開。

- * 人 材 …各種事業への登用
- * 食 材 …施設での食事提供として活用（地産地消）
- * 自然環境…施設内の自然（森・木・沢・植物など）を教材とした事業の展開。
キャンプ、体験、自然遊び、登山教室。
- * その他 …市民・利用者アンケートによる新事業計画立案・実施。

2 一施設利用価値の向上

1、食堂業務開始

食事提供により、日帰り利用から宿泊利用へ移行する利用者が増加、特に学校団体の利用者が増加すると考える。

また、主催事業を宿泊型の事業へ移行できると考えます。

- * 小学校の1泊2日の宿泊学習等

2、施設の利用促進

研修棟の新たな設備の新設

- * 室内クライミングウォール設置・・・クライミング教室、登山教室、個人客の利用促進

施設の魅力を再認識および発信

- * 音楽サークルやクラブ、部活動の積極的利用

3、日帰り利用の利便性向上

入浴利用の改善

- * 日帰り利用者、施設利用者の入浴利用。

4、健康保養地としての発信

運動、食事、メンタルヘルス等、総合的な健康づくりの拠点。特に自然・森林を利用した森林療法・気候療法の開発。

- *ウォーキング、ノルディックウォーキング等健康教室、食育セミナー、森林セラピー等健康教室。日帰り、宿泊型にて開催。

5、施設利用案内の充実に向けた情報発信

ホームページ、SNS 発信等による、情報発信において、広く施設の利用価値を知らせる。

3-教育普及事業/自治体との連携事業、学校教育との連携

これまでのプログラムを点検し、新しく開発したプログラムを加え、多彩なプログラムを利用者が選ぶことのできる事業整備。教育的価値を意識した事業運営と普及推進。

1、学校の利用促進

教育プログラムの整備により、学校団体の利用を増やす。特に人間力向上を目指した教育プログラムの充実。

- * 1泊2日の宿泊学習。

2、幼児自然体験施設としての誘致（幼児教育の発信基地）

幼稚園・保育園、認定こども園などの施設において、園の内外での自然体験を見直し、幼児期における子供たちの体験を豊かなものにするための場づくりと普及。

- * 幼児期の自然遊びの活用拡大。幼児教育専攻学生のボランティア活用。

3、自治体との連携事業

自治体、教育委員会との連携事業

- * 子供の居場所作り、不登校キャンプ

4、指導者育成事業

教育プログラムの発信基地として、様々なセミナーの開催。

- * 教員免許状更新講習（文科省）開催。自然保育セミナー。健康保養地における指導者。

ボランティア育成

- * 中学・高校・大学の世代が、ボランティアに参加できる仕組みや講座開設。

資料

【健康保養地】

- * 兵庫県多可町健康保養地 <https://www.takacho.net/wellness/>
- * 山形県 上山市温泉クアオルト協議会 <https://www.city.kaminoyama.yamagata.jp/site/kurort/>
- * 新潟県妙高市 妙高型健康保養地まちづくり
- * 六甲健康保養地研究会 <http://rokkokurort.net>
- * 日本クアオルト協議会 <http://japankurort.jp>
- * 一般社団法人健康保養地医学研究機構 <https://www.hrmed.jp>

【幼児自然保育】

- * 鳥取県福祉保健部子育て王国推進局子育て応援課

作成：公益財団法人日本アウトワード・バウンド協会

